



国際コンファレンス 金融システムの安定化、規制と金融包摂

金融庁・アジア開発銀行研究所・国際通貨基金 共催

2014年1月27日 午前10時～午後6時
中央合同庁舎第7号館東館3階講堂

概要

多くの金融当局にとっての主要な課題は、金融システムの安定性のための国際ルールの構築、ソブリン・リスクの管理、成長戦略のためのさまざまな資金提供などがある。金融業における競争促進と安定的な金融システムの維持のバランスをとることも、金融監督行政の重要な政策課題である。

また、アジア各国では、中小企業が経済活動の重要な地位を占めているが、中小企業は大企業に比べて資金調達が困難である。中小企業の信用データが不足していることから、銀行と中小企業の間には、情報の非対称性が存在するが、中小企業が事業を行うためには、安定的な資金提供が不可欠である。日本の「中小企業信用リスク情報データベース (CRD)」は、中小企業の信用状況を収集し、倒産確率を推計することができる。このようなデータベースのアジアでの蓄積により、中小企業の資金調達を確保する政策が極めて重要である。

アジアのいくつかの国では、中小企業のための信用保証制度の創設が検討されている。中小企業によるスムーズな資金調達を確保することは重要であるが、他方、信用保証制度によって過剰な信用を付与することがモラル・ハザードの問題を引き起こしかねない。銀行と信用保証協会による信用保証の適切なリスク分担が必要である。

最後に、金融へのアクセスには二つの側面がある。第一に、銀行は、大きな企業だけではなく、中小企業・個人へも貸付を行える。もう一つは企業の投資や資産管理のために金融アドバイスを提供することである。

また、個人や中小企業事業主への金融経済教育は、発展途上国の多くで不足している。セッション3ではどのような金融経済教育が望ましいのかを議論する。

国際コンファレンス「金融システムの安定化、規制と金融包摂」
(日時：1月27日(月) 10:00～18:00、於：中央合同庁舎第7号館東館3階講堂)
議事次第案 (1月10日時点)

10:00 開会挨拶
岡田 広 内閣府副大臣 (金融担当)

10:10-11:30 【セッション1】金融システムの安定化と金融産業の競争

現在の世界的な金融の状況を鑑みると、金融当局にとって主要な課題は、金融システムの安定性の維持、ソブリン・リスクの管理、経済成長のための長期資金の確保および金融業における競争の促進である。金融監督当局にとって、金融監督を通じてこうした目的のバランスをとることが重要な政策課題となっている。

議長 オッドパー・ブレック 国際通貨基金 アジア太平洋地域事務所所長

報告 ラトナ・サヘイ 国際通貨基金 金融資本市場局副局長
有吉 章 一橋大学 国際・公共政策研究大学院教授

コメント 森田 宗男 金融庁 総務企画局参事官 (国際担当)
加川 明彦 三菱UFJフィナンシャル・グループ 常務取締役
ジェハ・パーク アジア開発銀行研究所 副所長

フロアディスカッション

11:30-13:00 休憩

13:00 基調講演「日本の地域金融の現状・課題とその方向性」
小野 尚 金融庁 監督局参事官

13:20-14:45 【セッション2】中小企業金融

アジア各国の経済における一つの特徴は、中小企業が経済における重要な部分を占め、中小企業による資金需要が強いということである。しかし、中小企業は大企業に比べて資金調達が困難である。中小企業の信用データが不足していることから、銀行は中小企業への貸出しに積極的ではない。こうした情報の非対称性を改善し、中小企業が安定した長期の資金を調達できるようにすることが重要である。日本の「中小企業信用リスク情報データベース」は、中小企業の信用状況を判断するもので、このようなデータベースの蓄積はアジアの国々にとって一つの策である。アジアの力強い成長には、中小企業の資金調達を確保する政策が極めて重要である。アジアのいくつかの国では、中小企業のための信用保証制度の創設が検討されている。中小企業によるスムーズな資金調達を確保することは重要であるが、一方で信用保証制度によって過剰な信用を付与することがモラル・ハザードの問題を引き起こしかねない。銀行と信用保証協会による適切なリスク分担が必要である。

議長 スハエディ インドネシア銀行東インドネシア地区担当上級部長

報告 ガネシャン・ウィグナラジャ アジア開発銀行研究所 研究部長
ジョンソン・シン 国際通貨基金 エコノミスト

コメント 渡部 和孝 慶應義塾大学 商学部教授
小倉 義明 早稲田大学 政治経済学部准教授
サリニー・ワンタル タイ中央銀行 中小企業金融担当総裁補
小野 尚 金融庁 監督局参事官

フロアディスカッション

14:45-15:15 コーヒーブレイク

15:15-16:30 【セッション3】金融包摂と金融教育

金融へのアクセスには二つの側面がある。一つは、大きな企業だけではなく、中小企業や個人へも貸付を行えることである。これによって個人は住居などの購入が容易になる。そして、もう一つは彼らの投資や資産管理のために金融サービスを提供することである。アジアにおいてはこれらの二つの側面のいずれも欠如している。こうした中で、個人貯金を吸収する金融機関こそが金融包摂の重要な役割を担いうる。

また、中小企業や個人への金融教育は発展途上国の多くで不十分である。セッション3ではどのような金融教育が望ましいのかを議論する。

議長 タリサ・ワタナケート 元タイ中央銀行総裁

報告 吉野 直行 金融庁 金融研究センター長、慶應義塾大学経済学部教授
古澤 知之 金融庁 総務企画局政策課長
ピーター・モーガン アジア開発銀行研究所 シニアリサーチコンサルタント

コメント ラネー・ジャヤマハ ハットンナショナル銀行会長（元スリランカ中銀副総裁）
ブンキー・ウィボウォ インドネシア銀行 金融アクセス・中小企業担当部長
ジュリアス・シーザー・パレーニャス 三菱東京 UFJ 銀行国際関係担当顧問

フロアディスカッション

16:35-17:50 【セッション4】パネルディスカッション:アジアの経済成長へ向けた金融システム

議長 河合 正弘 アジア開発銀行研究所 所長兼 CEO

講演 ムリヤマン・D・ハダド インドネシア金融庁 理事長

パネリスト 梶川 幹夫 財務省国際局次長
タリサ・ワタナケート 元タイ中央銀行総裁
ラネー・ジャヤマハ ハットンナショナル銀行会長 (元スリランカ中銀副総裁)
小野 尚 金融庁 監督局参事官
ラトナ・サヘイ 国際通貨基金 金融資本市場局副局長

17:50-18:00 閉会挨拶
河合 正弘 アジア開発銀行研究所 所長兼 CEO